２０２６年１１月１５日 聖霊降臨後第二十五主日礼拝説教
「御怒りのうちにある救い」(ゼファニヤ1章7、１２～１８節)

〇預言者ゼファニヤ（１章１節)

「ユダの王アモンの子ヨシヤの時代（紀元前 639-608 年）に､」
来たるべき神の憤りと救いを、ユダの人々に宣べ伝えた。

〇ゼファニヤ１章７節

「主なる神の御前に沈黙せよ。主の日は 近づいている。」

❶沈黙せよ：何の言い訳もせず、黙して神の裁きを迎えよ。

❷主の日：神の厳しさと慈しみが、見える形で示される時

＊御怒りの通り過ぎた後に、神の救いがやって来る。

あ）十字架の上で見捨てられたイエスの死がなければ…

い）来たるべき終わりの日も、御怒りの訪れから始まる。

※*天と地が滅びる〈主の日〉が、絶えず近づいている。*

〇ゼファニヤ１章１２節

「そのときが来れば わたしは…心の中で『主は 幸いをも、
災いをもくだされない』と言っている者を罰する。」

＊神を軽く見る思い、畏れなき心を、きょう悔い改めよ。

〇ゼファニヤ１章１８節

「主の憤りの日に 地上はくまなく主の熱情の火に焼き尽くされる
主は恐るべき破滅を 地上に住むすべての者に臨ませられる。」

＊この〈みことば〉が、そのとおりになる日は必ず来る。

☆十字架のうちに〈終わりの裁き〉の厳しさが示されている。

〇Ｉテサロニケ５章９節

「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの
主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められた」

＊聖書翻訳本文は日本聖書協会『聖書 新共同訳』からの引用です。